

研修テーマ：訪問看護師の地域ケア・他機関との連携・チームの自主運営について学ぶ

オランダ：Buurtzorg（ビュートゾルフ）

Buurtzorg は、オランダ語で「地域ケア」という意味で、2006 年にひとつの訪問看護チーム（訪問看護ステーション）として誕生した。現在、訪問看護師 13,000 人が全国約 900 のチームで働いている。各チームは 8 人～13 人程度の看護師で構成され、それぞれが予算や人事を含めた自習運営を行っている。



Doorwerth という村で、ビュートゾルフのチーム 1 と 2 が隣同士で入っている事務所の建物。住民が気軽に訪れて相談しやすいように、駐車場があり、住宅街の中の店舗や事業所がある区画の 1 階で事務所を構えている。チーム 3 の事務所も徒歩で行ける場所にある。近くにあることで、各チームは自主運営でありながら、お互いに支え合う存在にもなれる。また、全国のチームはオンラインの組織内コミュニケーションツールでつながっており、看護をする上でお互いに連絡や相談しやすい環境をつくっている。オンラインだけでなく、遠くのチーム同士であっても看護技術や症例を学ぶために、訪問し合うことも珍しくない。

訪問看護師は、自宅でも移動中でも、タブレットでクライアント（患者さん）の最新状況を確認でき、訪問スケジュールにそって各自クライアントの自宅へ訪問に向かう。数人の訪問看護を終えて、この事務所にそれぞれが集まってくる。

お茶を片手にタブレットや PC で記録やまとめをする。訪問時間中に各看護師が入力した情報は即時にクラウドデータとなるため、1 日 3 回の訪問が必要なクライアントの場合でも、最新情報が常にチーム全体に共有されている。この際にクライアントや他の地域福祉サービスのスケジュールなどの情報も、オンライン上だけでなく、顔を合わせた仲間に共有する。



自主運営であるビュートゾルフのチームでは「私たちのクライアントや地域にとって必要だ」と訪問看護師たちが感じたことをプロジェクトとしても実施できる。このチームでは数年前に高齢者の転倒防止やリハビリテーションを兼ねた運動療法のグループセッションを定期的で開催し始めた。地域の教会の一室を借り、ビュートゾルフのクライアントであるかどうかにかかわらず、地域の高齢者や障害者が通ってきている。現在では療法士が自分で継続運営する形に引き継ぎ、訪問看護チームは新たなプロジェクトに取り組み始めている。



今年は新しいプロジェクトの一環でクライアントとその家族が集う会を企画しているので、その招待状を手作り中。また、多くのチームで看護学生を実習生として受け入れている。



事務所の収納部分

自転車の国オランダでは、訪問看護でも自転車が使われることも多い。さまざまなケア物品の中には寄付されたものも多数含まれている。



看護師が情報交換したり会議をしたりする部屋の他に、他の福祉関係者やソーシャルワーカーとの打合せ、クライアントとその家族との面談にも使える会議スペース。天窓から光が入り、あたたかくプライバシーが守られた部屋にしている。こうしたスペースを設けるかどうか、どのようにしつらえるかなども全て各チームに任せられている。

昨年に始まった「オーデンセ・ハウス」（ディサービスの対象外となること多い初期・軽度の認知症の人たちの集まれる場所づくり）の取り組みは、教会の最も大きなスペースを借りて週に3回行われている。大人数が集まれる部屋と静かに過ごせる部屋と2種類を住民ボランティアと協力して用意された。このプロジェクトはビュートゾルフのクライアントがサービスの発案者の1人であり、ビュートゾルフのチームも地域の住民も協働し、発案から3年以上の活動の末に実を結びつつある。いずれは庭に出られるような小径なども整備していく予定。

ビュートゾルフの訪問看護師は、自宅に訪問して医療や看護に関わることだけを行うのではなく、人々ができる限り健康で自立した状態を保ちながら生活でき、生涯を全うできることを目指す。家族や隣人たちが安心してクライアントをサポートし、またクライアント自身もこのオーデンセ・ハウスのプロジェクトのように、地域での自分の活動や役割を持てるようにサポートするなど、訪問看護師が、狭義の「医療」「訪問看護」の枠を超えて、地域福祉や地域活動を促進していることも多い。

オーデンセ・ハウスとして利用しているスペース（大きな部屋・小さな部屋）



教会の信徒さんだけでなく、地域のボランティアも関わって壁を塗り、絵を飾り、棚等を造り、活動ができるように集められたゲームや道具

オランダでは 2,500 人に 1 箇所以上の家庭医の診療所が設けられる。人口約 5,500 人のこの村でも診療所に隣接して血液検査室や薬局、歯科医院、理学療法室などが集まっており、住民はワンストップでこうしたサービスが利用できる。理学療法院では、整体室も設けられ、マインドフルネスや理学療法の器具を健康増進目的（医療保険適用外）で利用する住民も訪れる。ビュートゾルフの訪問看護師は、こうした地域の他機関とも常日頃から挨拶や情報交換を行うなど、ソーシャルワークを行っている。

診療所に隣接する検査室と歯科医院。
ビュートゾルフの訪問看護チームがこうした場所に事務所を構えることもある。





「今はたまたま利用者さんがいないからどの部屋も見せてあげるわ」と理学療法院（理学療法士が開業している）の中を見せてくださった理学療法士さんと、小児を専門としている理学療法士さん。

療法器具や整体などできる台がおかれた部屋がいくつも用意されている。

